

メディカル メガバンク通信



機構長講演の様子

(アンケート) 追跡調査ご協力のお願い

IMM地域住民コホート調査は、一人ひとりの健康状態を数年間にわたり追跡し、未曾有の震災のストレスによる健康への影響などを調べます。そのため、健康調査後、数回にわたり皆さまの健康状態をアンケートでお伺いします。初回の調査票より質問量は少なく、記入時間は15分程度です。引き続き、皆さまのご協力をお願いいたします。

東北メディカル・メガバンク計画の第二段階が始まりました

平成24年7月に東日本大震災の復興事業として始まった東北メディカル・メガバンク計画は、平成29年4月より計画の第二段階を迎えました。

第二段階では、被災地域の復興はもとより、日本のゲノム医学の発展に大きく寄与する基盤事業として、次世代医療の実現に向け、事業を進めてまいります。

近年、ヒトの遺伝情報の解析とその活用が進み、特に医療現場での、遺伝性疾患の原因解析、治療、予防に対する遺伝情報の活用には目覚ましいものがあります。これまで遺伝的な影響があまり考えられていなかった生活習慣病についても、遺伝学的側面からの研究が行われ始めています。遺伝情報を基に病気に立ち向かう時代が来たと言っても過言ではありません。これから数回にわたり遺伝医療の現状、遺伝学の基本の一部をお伝えしたいと思います。

最近、巷において「遺伝子検査」と称する宣伝広告を目にするようになり



図1 とある地下鉄車内の広告

いでん
Genetic column
第1回
「いでん」について



図2 医学的に信頼できる検査の条件

(執筆・監修) イノベーション推進・人材育成部門 部門長 福島 明宗

ました(図1)。これはDTC(Direct-to-Consumer Genetic Testing)という市販の遺伝子検査です。DTCの多くは通常病院で行われる遺伝子検査と比べて極めて安価なもので、インターネットを通じて個人単位での申込みができます。

例えば「がん」に関連する遺伝子を数個調べる「がん発症リスク」のDTCを申し込むと、数週間後には関連の遺伝子の異常の有無と「がん発症リスク」が書かれた報告書が届きますが、この「発症リスク」は医学的に信頼できるのでしょうか？

医学的に信頼できる検査は様々な条件(図2)を満たさなければならず、条件を満たした検査は「遺伝学的検査」として医療に用いられます。

「がん」を含め、多くの疾患の発症メカニズムは極めて複雑で、関連の遺伝子に異常があったとしても、必ずしも発症するわけではありません。生活習慣など環境要因の影響を含め、発症を正確に予測するにはまだまだ多くの検証が必要です。DTCは、現時点でこれらの条件を満たしていないため医療に用いることはできません。

遺伝学的な説明には多くの時間を要するため、本学附属病院では「臨床遺伝科」が遺伝学的検査、遺伝カウンセリングを含め、遺伝に関する診療を専門的に行なっています。病院に専門部門があるからといって、病気でなくても受診するのは敷居が高いと思う方、医療機関受診以外の方法で遺伝学的知識を得たいと思う方のために、一般の方を対象とした「いでん講習会」と題する勉強会をこれまでに数回開催しました。次回はその内容の一部をご紹介します。



発行日 2017年9月30日
発行 **IMM**いわて東北メディカル・メガバンク機構
IWATE TOHOKU MEDICAL MEGABANK ORGANIZATION
〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町西徳田2-1-1 岩手医科大学矢巾キャンパス
電話：019-651-5110 (内線 5508 / 5509) URL : <http://iwate-megabank.org>

平成29年度IMM地域住民コホート調査 詳細二次調査が始まりました

東北メディカル・メガバンク計画における地域住民コホート調査は、平成28年度までに新規登録を終了し、平成29年6月から詳細二次調査を開始しました。

平成29年度は、平成25年度にIMM地域住民コホート調査にご参加いただいた方が対象です。(矢巾町、久慈市、洋野町、野田村、普代村、大船渡市、住田町)

詳細二次調査にご参加いただくことで、前回の結果と比較することが可能となり、これからの健康づくりや病気の予防につなげることが出来ます。

詳細二次調査は、当機構が岩手県内5か所に設置しているサテライト(矢巾はセンター)または市町村が実施する健診会場にてご参加いただけます。

対象の方には、個別に順次ご案内しておりますので、皆さまの継続的なご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。



■がIMM地域住民コホート調査対象市町村
○が今年度の詳細二次調査対象市町村

健診参加型健康調査

8月27日より、健診参加型の詳細二次調査を開始し、普代村、野田村、久慈市(一部)、住田町の特定健診会場で調査を実施しました。(のべ16日、9月末現在)久慈市(全域)では12月まで調査を行うほか、洋野町、大船渡市の特定健診会場でも調査を実施します。各自自治体の皆さまをはじめ、当事業をご理解いただき、ご協力くださった皆さまに心よりお礼申し上げますとともに、継続的なご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。



▲普代村の様子



▲野田村の様子

結果返却

ご参加いただいた方には、詳しい検査結果を3〜4か月後に冊子にてお返しします。

また、検査結果の見方や、その他様々な相談に看護師・保健師など医療資格を持ったスタッフが24時間・年中無休・無料でお答えするIMM健康相談ダイヤルサービスもご利用いただけます。



▲検査結果報告書(表紙イメージ)

検査項目

皆さまには、採血・採尿のほか、生活習慣や食生活、こころの健康度などをお尋ねする3冊の調査票の記入をお願いしております。

また、サテライト型健康調査では、これに加えて、心電図や内臓脂肪測定、骨密度測定などの生理機能検査を受けることができます。健康調査の所要時間は、2時間から3時間程度です。(サテライトにより検査項目が異なる場合があります。)

◆血液・尿検査
糖尿病の検査、心臓や腎臓の検査
骨粗しょう症の検査など

◆アンケート調査(調査票3冊)
栄養摂取状態
がん・脳卒中・心臓病になる確率
睡眠やストレス度など

◆生理機能検査(サテライト型のみ)
心電図、脈波、内臓脂肪測定
動脈硬化検査、骨密度測定など



皆さまにお願いする事

今年度の詳細二次調査

- | 6月 |
|---|
| 21日 久慈サテライト開始
23日 気仙サテライト
大船渡健康調査会場開始 |
| 8月 |
| 27日 普代村開始 |
| 9月 |
| 7日 野田村開始
25日 久慈市開始
26日 住田町開始 |
| 10月 |
| 2日 矢巾センター開始予定
5日 洋野町開始予定
16日 大船渡市開始予定 |

活動報告

TOMMOとシンポジウム開催

4月21日に、東京の大手町サンケイプラザにて、東北大学東北メディカル・メガバンク機構(TOMMO)と共同で東北メディカル・メガバンク計画シンポジウムを開催しました。国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の菱山理事による基調講演のほか、当計画の第一期におけるコホート調査とバイオバンク構築の進捗や、個別化予防・個別化医療の実現に向けた今後の展望について、両機構長らが講演を行いました。



▲固い握手を交わす
IMM 佐々木機構長(左)と
ToMMo 山本機構長(右)



▲3冊の調査票



サテライト型健康調査

6月21日より久慈サテライト、6月23日より気仙サテライト大船渡健康調査会場、サテライト型の詳細二次調査が始まり、多くの方にご協力いただいております。(のべ48日、9月末現在)

10月からは、岩手医科大学矢巾キャンパス内の矢巾センターでもサテライト型健康調査を開始します。

なお、サテライト型健康調査は完全予約制です。



▲骨密度測定



▲頸部エコー検査

健康講演を実施

7月5日に、住田町主催の健康講演が行われ、臨床研究・疫学研究部門の丹野副部門長が、クイズ形式で分かりやすく糖尿病の解説をしたほか、IMM地域住民コホート調査の結果から見えてきたこと、脳卒中の予防法やイギリスでの国を挙げた減塩運動などを紹介しました。



機構本部見学(岩手医大矢巾キャンパス)

9月12日に、一戸町保健推進委員、健康福祉課の皆さまが来学しました。

当日は丹野副部門長がIMM地域住民コホート調査の結果を基にした健康づくりについて講演したほか、矢巾センターなどの見学も実施しました。

